

■ 開設年度		■ 開講部局	
2022		共通教育	
■ 科目名			
アメーバ経営			
■ 英語科目名			
Amoeba Management			
■ 前後期	■ 開講区分	■ 科目形態	■ 単位数
前期・後期	毎週	講義	2
■ (2 8 年度以降入学生) 中分類		■ (2 8 年度以降入学生) 小分類	
教養教育科目(教養基礎科目)		人文社会科学分野(選択科目)	
■ (2 7 年度以前入学生) 中分類		■ (2 7 年度以前入学生) 小分類	
b. 知力：人文・社会科学		11. 経済・経営を学ぶ	
■ 受講学部学科			
全学部			
■ 担当教員		■ 担当教員所属	
劉美玲		稲盛アカデミー	
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)	
099-285-3767		k1646670@kadai.jp	
■ オフィスアワー (授業時間外の対応)			
前期:水曜日3限 後期:火曜日3限			
■ 共同担当教員			
■ アクティブ・ラーニング			
2. ディベート; 4. プレゼンテーション;			
■ アクティブ・ラーニング (「その他」の内容)			
■ アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中8回			
■ 理念 重要視する教育目標			
3 . 論理的思考 3) 自分の考えを論理的に話し、書くことができる			
■ 理念 教育目標			
1 . 自己理解 1) 自身の関心・能力・価値観を踏まえて行動できる			
■ 理念 教育目標			
2 . 情報収集・精査・統合 1) 必要な情報を収集できる			
■ 理念 教育目標			
2 . 情報収集・精査・統合 3) 個別の知識を統合して課題の解決策を提案できる			
■ 授業概要 (目的・内容・方法)			
この講義は全15回の授業を遠隔形式(リアルタイム配信：zoom)で実施する。 授業目的：この講義の目的はアメーバ経営の基本のデザインと導入状況を理解することにある。 授業内容：京セラ（株）は創業以来一度も赤字を出したことなく、成長性と収益性を両立してきた。その理由の一つは「アメーバ経営」にあると言われている。この講義は、主に管理会計の観点から、アメーバ経営を解説する。一方、広義のアメーバ経営は、管理会計的要素、組織的要素、稲盛フィロソフィーを含み、三者が相互補完的に機能を発揮する。アメーバ経営を包括的に理解してもらうために、必要に応じて組織論（組織構造や組織文化）の内容も含む。また、アメーバ経営は、京セラグループだけではなく、多くの日本企業や海外企業にも導入されている。これらの企業へのアメーバ経営の導入状況を理解してもらうために、導入の概要や事例を講義内容に含む。 授業方法：パワーポイントを使って講義する。			
■ 学習目標			
1. 一般的な管理会計の仕組みが理解できること。 2. アメーバ経営における管理会計の仕組みが理解できること。 3. アメーバ経営の導入状況が理解できること。 4. 管理会計やアメーバ経営の知識を（サイクル活動などに）活用できること。			

■ 授業計画・試験の有無（１６回〔初修語は３１回〕に分け、回数、授業内容、自学自習等）

- １．はじめに - アメーバ経営の概要
- ２．責任センター
- ３．アメーバ経営における責任センター
- ４．振替価格
- ５．アメーバ経営における振替価格
- ６．PDCA（１）：経営計画
- ７．PDCA（２）：予算管理
- ８．アメーバ経営におけるPDCA
- ９．小課題発表会
- １０．組織文化
- １１．アメーバ経営における稲盛フィロソフィ
- １２．パッケージとしてのアメーバ経営
- １３．アメーバ経営の導入（１）：概要と国際化
- １４．アメーバ経営の導入（２）：事例
- １５．まとめ
- １６．期末試験は行わない（指定期日までにレポートを提出）
この講義は全15回の授業を遠隔形式(リアルタイム配信：zoom)で実施する。

■ 授業外学習(予習・復習)

（復習）授業で学んだ内容を振り返ること。

■ 受講要件	■ 成績の評価基準
経営学に興味を持っていること。特にアルバイト、サークル活動などにおいてリーダーや責任者を担当する方に役立つかと考える。	フィードバックレポート(40%) 小課題(30%) 期末レポート課題(30%)
■ 教科書	■ 参考書
授業資料を事前に配布する。	谷武幸『エッセンシャル管理会計』（第3版）中央経済社 稲盛和夫『アメーバ経営：ひとりひとりの社員が主役』日本経済新聞社 三矢裕・加護野忠男・谷武幸『アメーバ経営が会社を変える：やる気を引き出す小集団部門別採算制度』ダイヤモンド社
■ 地域志向科目の区分（平成27年度入学生用）	■ 地域志向科目の区分（平成28年度以降入学生用）

■ 実務経験のある教員による実践的授業

■ SDGs

■ その他

本講義の最終の目的は受講者による経営学の知識の活用にあるため、ある程度専門的な細かい知識を紹介する。授業形態(対面・遠隔)については、コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。